

ぼんぼん・青山様のつどいと 夕涼みが公民館に

7月27日(土)、「ぼんぼん・青山様のつどいと夕涼み」が田川公民館で開催されました。
 日中は猛暑でしたが、開催に合わせ少しの雨で涼しくなってから始まりました。
 子どもも大人も楽しんだ当日の様子を紙面をご覧ください。

たがわ

令和6年9月1日現在
 総世帯数 1,959世帯
 総人口 3,739人
 男 1,793人
 女 1,946人



ホタル観察会とヘイケボタル考察

7月13日(土)に両島川ホタル観察会をおこなった。約50人の参加があり、関心の高さがうかがわれた。しかしこの日観察できたヘイケボタルはわずか2匹。正直なんとも寂しい観察会となった。

田川地区には両島川のほかに湧水川である征矢野川、穴田川があり、さらに長沢川(薄川と湧水の混合)があるが、どの川にも昭和の初めごろはたくさんヘイケボタルがいたという記述が残されている。今はコンクリート三面張りになって土手も草木も少なくなり、ホタルのすめる環境が壊されてしまった。ところが両島川下流では、葦が繁茂し、水中には清流でしか育たないバイカモが群生しており、昔ながらの自然そのままの姿が残されている。ヘイケボタルにとっては格好の生息場所である。田川地区周辺の水辺には、ヘイケボタルがすんでいる場所が数か所残っている。ヘイケボタルは、昔は水田で観察されたが最近ほとんど姿を見かけない。田やせぎの土地改良と除草剤などの使用により、生息環境が奪



われ一気に消失したのではと考えている。かくして、ヘイケボタルにとっては、水田地帯よりも昔ながらの水路のほうが生きる場所となっている。ホタルの存在は、自然界のバロメーターとも言える。一方、ゲンジボタルは山裾などの清流域やホタルの商業化などで養殖されている。見ることが多いのもこちらのホタルではなからうか。

ホタルがすめる条件としては、水辺があること、草木が生えていること、さなぎになれるような軟らかな土があること、餌となる生き物がいること、餌となる暗闇があることなどである。難しいことは言っていないが、現在こういう環境は希少である。池沼はつぶされ、宅地化され、

水路はU字溝に。町には街路灯が一晩中ついており、これではホタルのすめる環境があるとはとても言えない。ホタルはわたしたちに生きていくための環境の大切さと、環境破壊の実態を教えてくれている。ホタルの個体数の減少は、自分たちの利益のために環境を破壊し続ける人間への警鐘とも受け取れる。

観察会に来てくださった子どもたちに、未来のヘイケボタルがすめる環境づくりを期待したい。ともにヘイケボタルのすめる環境づくりに取り組んでくださる仲間を募っている。

世界遺産富岡製糸場へ 群馬文化視察

7月3日(水)、梅雨の晴れ間の中、文化委員会の企画による「群馬文化視察」が行われ、38人が参加しました。

富岡製糸場では、解説員さんの案内のもと施設見学をしました。平成26年に世界遺産に登録された富岡製糸場は近代産業革命の象徴です。明治時代の建物がほそそのまま残されていました。たくさん紡織機が並ぶ繰糸所はどこ

親子で楽しく 食生活改善推進協議会が主催(田川公民館共催)する 親子料理教室を開催しました。5歳児から小学6年生までの子どもと保護者合わせて15人が参加してくれました。

献立は甘酢しょうがと食べるエリンギ豚丼、あさりのかきたま汁、豆腐とヨーグルトのレアチーズケーキ風の3品です。家でお手伝いしているとのこと、子どもたちの手際がよく、調理時間で完成しました。

調理時間は甘酢しょうがと食べるエリンギ豚丼、あさりのかきたま汁、豆腐とヨーグルトのレアチーズケーキ風の3品です。家でお手伝いしているとのこと、子どもたちの手際がよく、調理時間で完成しました。



は簡単でしたので、家で作りたいという声もありました。また、豆腐とヨーグルトのレアチーズケーキ風がおいしかったことや楽しく調理できたなどの感想を聞くことができて嬉しかったです。

【食改ヘルスメイト員 西澤生子】

か近未来的な雰囲気でした。この日はたまたま新紙幣の発行日と重なり、新1万円札の顔となった渋沢栄一が設立に深く関わった同施設は、にぎわいを見せていました。

午後はこんやくパークの工場見学をしました。とは言ったものの、見学は早々に切り上げ、充実のお土産コーナーやバイキングを楽しみました。こんなに早くからできておかずが数多くありました。詰め放題に白熱した方もいた

のではありませんか。視察を終え、産業革命に携わった先人への畏敬の念と、両手いっぱいこんにやくを抱え、帰路につきました。

【田川公民館文化委員会】

